

## 「コロナ禍のインド航空業界動向とDX事情」

田中 啓介

インド経済の中でもめざましい成長を見せている航空業界。IT 産業が豊かになって中産階級が増え、飛行機を利用した国内旅行が浸透してきたこともその背景にあります。近々インドの航空業界は世界第3位の規模になるとの見通しもあり、各地の空港整備が進む一方で、安い運賃を保っています。その理由の1つが、最新テクノロジーの積極的な導入によるオペレーションの効率化だと考えられます。

今回は、成長を続けるインド航空業界のDX事情の一部をご紹介します。

### <2024年には世界第3位の市場規模へ>

インドの国内航空市場は、世界でもっとも急速に発達していると言われていました。CAPA Indiaによると、2021年度のインド全土の航空便利用者数は1億1,537万人にのぼる見込みで、さらに国際航空運送協会（IATA: International Air Transport Association）によると、インドは2024年に国内航空券の販売総額で世界第3位の規模になると言われています。

航空業界を語る上で切り離せないのが新型コロナウイルスの影響です。2020年のコロナの流行はインドの航空業界にも深刻な影響を与え、一時は国際便の全面停止にまで追い込まれました。ですが、2021年10月のフェスティバルシーズンには1か月間で約880万人が飛行機を利用するほどに客数は戻り始め（2019年のコロナ前の同月利用者数は約1,200万人）、さらにインド民間航空省（MoCA: The Ministry of Civil Aviation）は2021年7月に8つの新しい公立の飛行学校を5都市の空港に設けるとし、将来の航空業界の規模拡大に備え、パイロットの育成にも努めています。

### <なぜインドの航空運賃は安いのか？>

インドの航空業界は急成長を遂げており、かつ、航空運賃は世界的に見てもかなり低水準に抑えられています。2017年に実施されたKiwi.comによる100kmあたりの国別航空運賃の比較では、インドは第3位にランクイン

しました。運賃の水準は、2021年現在でも当時から大幅な変動はありません。それでは、なぜこの運賃の安さを実現できているのでしょうか。主な理由に、①航空会社のビジネスモデルとデジタル化されたオペレーション、②インド政府による「UDANスキーム」の2つが考えられます。

### <1 リースバック方式とデジタルオペレーション>

航空運賃が安い背景としてまず考えられるのが、所有している機体を売却すると同時に売却先からリースする方法「セール・アンド・リースバック」という手法の採用です。これにより、機体の利用を中断することなく資金調達を実現しています。また昨今、スタートアップ企業が提供するデジタル化のサービスを積極的に利用し、オペレーションの効率化・DXを推進する航空会社が増えていることも挙げられます。

### <2 「UDANスキームとは」>

さらに、インドの航空運賃の安さに大きく貢献しているのが政府による「UDANスキーム」です。

UDANとは、ヒンディー語の「Ude Desh Ka Aam Naagarik」の略で、英語では「An aviation country for common citizen」、市民のために航空便を安価にすることを目的とした中央政府による地方間路線への支援制度で、2016年10月にモディ首相のもと立ち上がりました。各地域のサービスが行き届いていない空港を航空便で繋ぐことで、中小規模の都市の経済発展を狙う政策のひとつであり、このしくみに参加する企業は、政府から一定のインセンティブおよび税金の減免を受けることができます。



【引用：インド空港局（AAI）のホームページ】